

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 3 部門第 2 区分
【発行日】令和 5 年 4 月 25 日(2023.4.25)

【公開番号】特開 2023-36825(P2023-36825A)
【公開日】令和 5 年 3 月 14 日(2023.3.14)
【年通号数】公開公報(特許)2023-048
【出願番号】特願 2022-206760(P2022-206760)
【国際特許分類】

A 6 1 K 31/4174(2006.01)

10

A 6 1 K 9/70(2006.01)

A 6 1 K 31/485(2006.01)

A 6 1 K 45/00(2006.01)

A 6 1 K 47/32(2006.01)

A 6 1 P 25/04(2006.01)

A 6 1 P 29/02(2006.01)

A 6 1 P 43/00(2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/4174

A 6 1 K 9/70 4 0 1

20

A 6 1 K 31/485

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 47/32

A 6 1 P 25/04

A 6 1 P 29/02

A 6 1 P 43/00 1 2 1

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 4 月 10 日(2023.4.10)

【手続補正 1】

30

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

対象にて術後疼痛を予防的に管理をするための経皮送達デバイスであって、
デクスメドミジン及び感圧接着剤を含むデクスメドミジン組成物と、
裏打ち層と
を含み、

40

経皮送達デバイスが、手術前に対象の皮膚表面に適用され、手術中対象と接触して維持され、約 50 $\mu\text{g}/\text{日}$ ~ 約 350 $\mu\text{g}/\text{日}$ のデクスメドミジンを継続的に複数日間投与するように構成されている前記デバイス。

【請求項 2】

前記疼痛が、骨モデル外科処置または軟組織モデル外科処置から生じる請求項 1 に記載の経皮送達デバイス。

【請求項 3】

前記疼痛が、胸骨正中切開術、腹腔鏡検査、乳腺切除術、関節形成術、骨切り術、がん手術、膝手術、及び肩手術から成る群から選択される外科処置から生じる請求項 1 または 2 に記載の経皮送達デバイス。

50

【請求項 4】

前記外科処置が骨切り術である請求項 3 に記載の経皮送達デバイス。

【請求項 5】

前記骨切り術が腱膜瘤切除術である請求項 4 に記載の経皮送達デバイス。

【請求項 6】

前記手術または外科処置より 12 時間～24 時間前の時に前記対象の前記皮膚表面に適用される請求項 1～5 のいずれか 1 項に記載の経皮送達デバイス。

【請求項 7】

150mcg～600mcg の 72 時間にわたる平均吸収量のデクスメトミジンを提供するのに十分な方法で前記対象の前記皮膚表面と接触して維持される請求項 1 に記載の経皮送達デバイス。 10

【請求項 8】

1mcg/時間～10mcg/時間の 72 時間にわたる平均デクスメトミジン吸収を提供するのに十分な方法で前記対象の前記皮膚表面と接触して維持される請求項 1 に記載の経皮送達デバイス。

【請求項 9】

50pg/mL～250pg/mL の 72 時間にわたる平均最大血漿濃度のデクスメトミジンを提供するのに十分な方法で前記対象の前記皮膚表面と接触して維持される請求項 1 に記載の経皮送達デバイス。

【請求項 10】

3000 時間×pg/mL～10000 時間×pg/mL の 72 時間にわたる血漿デクスメトミジンの濃度曲線下平均面積を提供するのに十分な方法で前記対象の前記皮膚表面と接触して維持される請求項 1 に記載の経皮送達デバイス。 20

【請求項 11】

ある量の水分補給流体を前記対象に投与することと組み合わせられる、請求項 1 に記載の経皮送達デバイス。

【請求項 12】

第 1 の点滴速度で第 1 の所定の時間、前記対象に前記水分補給流体が投与され、第 2 の点滴速度で第 2 の所定の時間、前記対象に前記水分補給流体が投与される請求項 1 に記載の経皮送達デバイス。 30

【請求項 13】

前記対象にオピオイドを同時投与することと組み合わせられる請求項 1 に記載の経皮送達デバイス。

【請求項 14】

前記オピオイドがオキシコドンである請求項 13 に記載の経皮送達デバイス。

【請求項 15】

経皮送達デバイスが、疼痛の発症の 10 時間～14 時間前の時に前記対象の前記皮膚表面に適用されるときに対象の疼痛を管理するのに十分なデクスメトミジンを送達するように構成されている請求項 1 に記載の経皮送達デバイス。

【請求項 16】

水分補給流体が、前記対象に経口的に投与される請求項 11 に記載の経皮送達デバイス。 40

【請求項 17】

経皮送達デバイスが、手術前に前記対象の前記皮膚表面に適用されるときに対象の術後疼痛を術後 3 日以上の間管理するのに十分なデクスメトミジンを送達するように構成されている請求項 1 に記載の経皮送達デバイス。